

JBIF 国内戦略 (2023-2027)

2023.11.20

緒言

日本生物多様性情報イニシアチブ (JBIF) は、国内の生物多様性データの GBIF への提供をおこなう組織であり、NBRP の課題の一つでもある。2017 年に、GBIF 日本ノード (当時) として、双方の状況に留意した独自の国内戦略 (日本ノード戦略 (2017-2021)) を立案した。その後、2021 年に日本の GBIF への参加形態が変わり、日本ノードから日本生物多様性イニシアチブに変わった際に JBIF 戦略 (2017-2021) と名称を改め、現在に至っている。

GBIF では 5 年ごとに戦略計画が設定されており、前期 (2017-2021) に引き続き、今期 (2023-2027) の戦略的枠組み (Strategic Framework) が公表された (新型コロナウイルス禍により一年の遅延が生じた)。一方で、NBRP では、2021 年 3 月に今後のバイオリソース整備の在り方に対する提言が公表され、それを踏まえて現在第 5 期 (2022-2027) の事業が進行中であり、JBIF も課題の一つとして実施されている。JBIF においては、これらの戦略や提言を踏まえた、新たな活動方針を立案する必要がある。

1. 現在の国内戦略と達成状況

JBIF 戦略 (2017-2021) では、1) 科学および社会で必要とされているデータを提供する、2) インフラストラクチャーを充実する、3) データの質的向上を図る、4) データギャップを埋める、5) 関連活動の交流を促進する、の 5 点が掲げられた。NBRP 第 4 期 (2017-2022) では、日本から GBIF へのオカレンスデータの公開数が 1000 万件を達成し、また S-Net データポータルや JBIF の検索システムの充実による国内向け発信の強化、講習会による能力向上、研究会やミーティングによる関連活動との連携推進などが実施され、一定の成果を上げたといえる。一方で、データの質の向上や教育普及、国際交流などは、今後の強化が必要である。

2. GBIF および NBRP での動向

1) GBIF の戦略的枠組み (GBIF Strategic Framework)

GBIF 事務局が定めた GBIF Strategic Framework では、GBIF の展望 (vision)、使命 (mission)、価値 (values) について概観した後に、次の 4 点からなる戦略的優先分野 (Strategic Priority Areas) が定められた。

1. 地球規模の生物多様性に関する科学的な研究と理解を促進するように、エビデンスを構築する。
Building the evidence to advance scientific research and understanding of global biodiversity
2. 全球変動に関する緊急の社会的課題に対処するために、政策への対応と知識移転の支援を行う。

Supporting policy responses and knowledge transfer that address urgent societal challenges around planetary change

3. 将来のニーズと課題に対応するネットワークを構築する。Enabling the network to meet future needs and challenges
4. 生物多様性に関連した知識を発展させるために、イノベーションを推進する。Driving innovation to advance biodiversity-related knowledge

2) NBRP をめぐる動向

2021年3月に、日本医療研究開発機構ナショナルバイオリソースプロジェクト推進委員会より報告書「今後のバイオリソース整備の在り方について」が公表された。これは2016年に公表された報告書の改訂版であり、社会ニーズの変化、新型コロナウイルス禍を巡る状況などを踏まえたものである。この中で、研究動向に対応したバイオリソースの整備とその付加価値の向上、品質管理、分野を超えた連携、データベース戦略のほか、リーダーや実務スタッフなどの人材育成や運営委員会の強化、パンデミックを含む災害時の対応、DSIを含むABSなどが課題としてあげられている。実験生物としてのリソースに対する記述も多いが、リソースの高度化や品質管理、データベース戦略、人材育成等は、情報としてのリソースにおいても共通の重要課題である。

3. JBIF 戦略（2023-2027）の骨子

1. 課題解決へ寄与できるよう、データの量と質を向上させる

現在のデータ収集と蓄積を継続する。生態観測データの公開強化、DNA由来データや種名データなど、多様なデータの蓄積と公開支援体制の構築、データの質的向上のためのツール類等による基盤整備を優先して実施する。

2. データ公開インフラを維持し、ニーズにあわせて高度化する

現在の公開インフラ（GBIF公開サーバ、JBIF、S-Netの各ポータル等）を維持する。生物多様性データの公開に関する技術動向を注視し、ニーズやシーズにあわせJBIFのデータ公開形態へのフィードバックを優先して実施する。

3. 生物多様性情報分野の普及と他分野との連携を推進し、データの利活用を拡大させる

データ提供者・利用者それぞれに対し、実習を含めた会合や学会等での講演、解説記事等の公開を通じて普及・能力向上のための活動を実施し、国際GBIFポータルの利用を含むJBIF公開データの利活用を推進する。特に、生命科学分野、生物多様性保全分野との連携を深める。

補足

本戦略は、GBIFの戦略期間とあわせ、JBIF運営委員会の承諾後より、2027年12月までとする。